

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	B	—	2
	管	—	C	—	3

推進主体	学生センター教務課
責任者	学生センター所長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	B	②LMS(学習管理システム:Learning Management System)及びポートフォリオの活用	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)
管	—	C	③学びの可視化のためのe-ポートフォリオの構築	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、既存の学修・教育方法に新たな価値観を加えて教育効果を高め、学生の主体的な学びや教員の教育・研究活動を効果的に支援していくことを目的として、全学に共通のLMS(学習管理システム:Learning Management System)を導入する。また、これと併せて導入する、学生の学修過程及び学修成果を一元管理する機能を持つポートフォリオも積極的に活用する方向で進め、可視化された蓄積情報をもとにした学生自身の自己省察を可能にする環境整備を行うとともに、学生の自律的学修の深化と教育の質的向上に対して支援を行っていく。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

現状、複数利用されているLMS(manaba、WebClass、Moodle)をMoodleに一本化し、既にMoodleを使用している外国語教育研究センター、国際社会科学部から先行リリースを開始し、他部門については、順次データの移管を実施し、令和5年度に本格的に運用を開始する。LMSの一本化により、学生及び教員の利便性を図り、利用率を高めることで教育の質の向上を図る。

また、LMSの利用に併せてポートフォリオ機能を付加し、LMSの利用率と併せてポートフォリオ機能の利用率を高める方策を検討する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	仕様検討及び検証						
	プレリリース						
		先行リリース					
	本リリース(全学同一環境による運用)						

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<p>令和3年度から始まったLMS導入WGにて、令和5年度からの全学導入に向けた仕様(全学的な導入に向けた運用環境の仕様確定・機器構成、Moodle以外に導入するソフトウェア等)を引き続き検討する。令和5年度の本格導入に向けて、令和4年度中を既存のLMSからデータを移行する期間とし、併せてテスト運用(以下、「先行リリース」)を開始する。</p> <p>※なお、令和3年度時点で独自にMoodleを利用してきた国際社会科学部と外国語教育研究センターについては、令和4年4月から先行リリース環境にて正式運用を開始。</p>	<p>令和4年4月から国際社会科学部と外国語教育研究センターの正式運用を開始した。並行して他部門のテスト運用のための環境を整備し、11月からテスト運用を可能とし、令和5年4月からの正式運用に向けたマニュアル配付と講習会のスケジュールを提示した。令和5年度の本学導入に向けては、現行の3つのLMSを利用している学生数が、一度にMoodleを使用したとしても、支障をきたさない機器構成とし、令和5年度の運用状況を検証しながら、適正な規模に縮小を図っていく。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>令和5年4月からの正式運用について、ユーザーのサポートを徹底し、安定的な稼働を実現する。また、ソフトウェアについては、オープンソースで、導入の自由度が高いため、正式運用時の最低限必要なソフトから、ユーザーの希望に合わせて、追加可能なソフトウェアを検証する。</p> <p>Maharaの導入についても、4月時点で使用可能な環境は整えるが、活用方法の周知は、必要な基本機能の使用方法が安定してから、検討する。</p>	<p>令和5年4月の稼働状況を分析し、次年度のサーバー規模を運用に支障が出ない範囲で縮減し、費用の支出を抑えることとした。</p> <p>Moodleの全学的な運用は開始しているが、令和5年度に限りmanabaも並行して運用しており、令和5年度中にMoodleへの移管を完了し、令和6年度からMoodleへの一本化が完了する。</p> <p>加えてMoodleの使用法について教員対象の講習会を実施し、利用の普及・定着に努めた。</p> <p>Maharaの導入については、使用可能な環境は整えたため、活用方法を周知し、令和6年度からの活用を図る。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>令和6年4月からのMoodle一本化にあたり、前年度から設置しているヘルプデスクを活用することで、新規ユーザーの安定的な運用をサポートする。また、さらなる活用のための一歩進んだ使用法の講習会を実施する。</p> <p>Moodle本体の基本性能を安定的に活用できることと並行して、Maharaの使用方法を周知し、ポートフォリオによる学修履歴の蓄積を図る。</p>	<p>新規ユーザーのサポートだけでなく、既存ユーザーの活用に向けてヘルプデスクと連携し、個別に活用方法の対応を行った。全体に向けた講習会は前年度の講習会の動画を配信し、新たに使用を開始する教員も見ることができるようにした。ただ講習会では限られた機能の紹介となるため、応用方法を知りたいユーザーには、個別対応を中心としてユーザーの習熟を図った。</p> <p>Moodleの動作については、一部動作が重く改善が必要だが、費用対効果の観点からサーバー規模は増強せず、設定の調整で改善を図った。</p> <p>ポートフォリオの活用について、MaharaはMoodleとの親和性が高いということで選定されたが、カスタマイズしない状態では使い勝手が悪く、現状のままでは効果的な活用は難しいことが判明した。教員と意見交換を行った結果、ポートフォリオの導入は一旦凍結することとなった。</p> <p>★進捗段階:「展開完了」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>LMSの安定的な稼働を維持すると共に、ポートフォリオの在り方も含めて、導入の是非を一から検討し直す。</p>	